Why not Mac?

vol.10

Macを導入しやすい企業とは？

<PART: II>

“新たな挑戦を支えるセキュリティの実現に
Macは最適な選択”

「Macはシンプル」が企業でも選ばれる理由

Mac導入が進んでいる企業の話を聞いていると、意思決定のポイントにいくつかの共通点が見えてくる。多様な働き方を実現するために、3つのポイントが挙げられる。一点目はクラウドシフト、二点目はモバイル活用、三点目はセキュリティ投資だ。それぞれが意思決定の大事なポイントに挙げられる理由は次の通りである。

クラウドシフトは、我々が生活している日常の環境変化が要因にある。地震や津波、台風などの天災の影響から、業務が止まってしまわないようにするために、それぞれの企業は社会的責任を果たすためにも、事業を継続することが求められる。一般的にBCP（事業継続計画）対策の中にあるディザスタリカバリ（DR）の取り組みにより、災害時にシステムを復旧・修復すること、またはその災害に備えたシステムや体制を整えることだ。クラウドサービスの普及も後押ししているが、やはりビジネスパーソンの意識が大きく変わったのは、東日本大震災の影響が大きい。クラウドを前提にしたITシステム投資に対して、経営層の理解も得やすく、いつでもどこでも働くことができる、ロケーションに囚われない環境が充実してきた。

モバイル活用は、誰もがiPhoneやスマートフォンを所有し、様々なアプリを駆使しながら情報活用している消費活動の流れが、ビジネス現場にも当たり前に浸透したことである。ITのコンシューマライゼーションにより、日常生活で使っているようなアプリが、企業のビジネス活動の中でも使われるようになり、さらにSaaS(Software as a Service)と呼ばれる形で、いつでも使いタイミングで、使いたい期間だけ利用するようなサブスクリプションモデルの登場も、モバイル活用の背景にある。

セキュリティへの取り組みは、一見保守的な取り組みに見えるかもしれない。ただし、これからの新しい働き方や、ビジネス価値の創出のために従業員一人ひとりのクリエイティビティを発揮する上でも、重要な取り組みなのだ。 セキュリティへの投資は顧客との信頼関係構築への投資と同義である。また、従業員が安心・安全に働くことができる環境につながり、多様な働き方をサポートすることが可能だ。

また、情報システム部門というのは、実は組織の中でも外部との接点が多いセクションでもある。メーカーやベンダーとのハイタッチも多く、最新情報や業界トレンドを掴みやすく、また異業界だけでなく、同業他社とのネットワーキングがしやすい点もある。企業の競争力を高める上でも、情報システム部門が外に出ることは、 大きなリターンを得ることにつながっているのだ。

これまで、情報システム部門の仕事は、運用保守がメインの仕事と思われてきた。実際、社内ネットワーク上に存在するオンプレミスのシステムを利用しているの場合は、サーバのアップデート作業などの運用保守に時間が取れれることが実態だ。業務で利用するアプリケーションがSaaSの場合、情報システム部門の仕事は設計・構築がメインになる。サーバの保守やアップデート作業などの運用保守は、サービスを提供するベンダー側どんどんアップデートされていくので、情報システム部門が直接作業するような実務は少ない。また、業務アプリやサービスを利用するユーザ部門に対して、使い方のトレーニングを行ったり、業務への定着化を支援していくことも、情報システム部門の大事な仕事の要素になっている。

こうした流れの中で、情報システム部門がMac導入を推奨している理由は「シンプル」であることが一番の理由に挙げられる。代表的なところは、購入した時点でOSと必須のアプリケーションのみがインストールされており、余計なものが入っていないところだ。あとは、ユーザアカウントやネットワーク、プリンタの設定と業務で使用するアプリケーションをインストールするのみだ。ほとんどのアプリケーションがGoogle Chrome等のインターネットブラウザで完結しつつあるが、余計なものを削除したり、パッチを適用してバージョンを揃えたりなどの業務負担が少ないところが、情報システム部門からの評価が高い。

そして、導入後の管理のしやすさも大事だ。Appleが企業向けに提供するプログラム「Apple Business Manager」のデバイス登録（Device Enrollment）とMDM（モバイルデバイス管理）製品を組み合わせて、ゼロタッチデプロイメントが実現できることは、業務効率化の一助となる。IT管理者は最初のプロセスの一部分のみに関与するのみで、あとはユーザ主導でMacを利用開始可能だ。運用の視点では、Appleが提供するMDMのAPIに基づいて製品開発されているJamfなどを使えば、Appleの設計思想に近く、製品が扱いやすく、リモートワイプが確実に適用されること、セキュリティアップデートの対応がしやすいことなども評価されているところである。

多様な働き方を実現するため、クラウドシフト、モバイル活用を推進する、そしてセキュリティ投資が企業の信頼向上につながることを忘れずに、現場にとっても管理者にとっても、シンプルに使いやすいものを選択する。その一つの解として、Mac導入は大きな効果をもたらすことになるはずだ。